

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（案）

令和 5 年 3 月

1 これまでの経緯

少子化などの社会の変化が激しい中、伊勢志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、平成 17 年度から伊勢志摩地域活性化推進協議会を設置し、当地域の県立高校のあり方や活性化の方策等について協議を続けてきました。

こうした中、平成 29 年 3 月策定の「県立高等学校活性化計画」（平成 29～令和 3 年度）に基づき、1 学年 3 学級以下の高等学校は、地域の状況、学校・学科の特色、生徒の通学実態等をふまえ、学校ごとに関係者による活性化協議会を設置し、学校と地域が役割を分担しながら「活性化プラン」を策定して高校の活性化に取り組むこととしました。当地域においては、南伊勢高校（南勢校舎、度会校舎）、鳥羽高校、志摩高校、水産高校の 4 校 5 校舎において、地域と一体となった活性化の取組を推進するとともに、当協議会においても取組状況を共有しながら伊勢志摩地域の高校の活性化について協議してきました。これらの取組の推進により、各学校では地域と連携した学びが進むなど、教育内容は充実してきましたが、入学者の増加には至っていない状況となりました。計画の最終年度である令和 3 年度には、各学校の活性化協議会において活性化取組の総括的な検証が行われ、協議会でも検証結果を共有しました。

令和 4 年度からは、総括的な検証や 15 年先の中学校卒業生数の減少等をふまえて策定した新たな「県立高等学校活性化計画」（令和 4～8 年度）に基づき、伊勢志摩地域の高校の学びと配置のあり方について検討を進め、その方向性を取りまとめることとしました。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和 4 年 3 月策定）より

これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

- これからの高等学校は、社会の変化を踏まえ、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、そのため、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- 3 学級以下の小規模校活性化の検証結果、15 年先までの中学校卒業生の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあるため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で 1 学年 3 学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。これらのことについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- 次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

○ 令和2～3年度の当協議会での協議

高校生や学校の状況、小規模校活性化の取組、国の教育改革の動き等を共有したうえで、当地域の中学校卒業生数の減少や進路状況などをふまえ、地域の高校生に育みたい力や県立高等学校のあり方について協議しました。

ア これからの伊勢志摩地域の県立高校生に必要な力や学びについて

これからの伊勢志摩地域の子どもたちには、変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むとともに、地域への愛着心を養いながら地域課題に取り組む学習等を通じて、将来、地域の担い手となるような人材を育成することが大切である。

イ これからの協議にあたり、大切にすべきことや配慮すべきことについて

- ・生徒や保護者の多様なニーズに対応するための工夫
- ・ICTを活用した学習、学び直しをはじめ一人ひとりへの丁寧な指導
- ・生徒の通学状況を考慮に入れた高校配置
- ・これまで培ってきた地域と連携した学びの継続 など

ウ 今後の生徒数の減少に対応した県立高等学校の配置の考え方について

今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少をふまえると、現在のままの県立高等学校の配置を続けていくことは難しい。これまでの地域の小規模校の教育内容を活かしつつ、この地域の高等学校の再編統合を協議していく必要がある。

2 当地域の県立高校を取り巻く状況

(1) 中学校卒業生数の推移

三重県の中学校卒業生数は、令和4年3月の16,244人から、令和13年3月には14,006人（令和4年3月比2,238人減）となることが見込まれており、引き続き少子化が進行します。その進行状況は地域によって異なりますが、当地域においては、以下の通り減少することが予測されています。

令和4年3月 1,879人

令和6年3月 1,723人（令和4年3月比156人〔8.3%〕減）

令和8年3月 1,716人（令和4年3月比163人〔8.7%〕減）

令和10年3月 1,572人（令和4年3月比307人〔16.3%〕減）

令和13年3月 1,549人（令和4年3月比330人〔17.6%〕減）

また、令和3年度の当地域の出生者数は1,199人となっています。

このことから、当地域全体の県立高校（全日制）の1学年の学級数は、中学校卒業生の進路状況が現在と大きく変わらない場合、令和4年度の32学級から、令和19年度には18～21学級になることが予想されます。

	中学校卒業生数（予測）			R3年度出生者数	
	現高1 R4.3卒	現小1 R13.3卒	R4.3比較	現1歳 R19.3卒	R4.3比較
伊勢市	1,082	912	▲ 170 (▲15.7%)	744	▲ 338 (▲31.2%)
鳥羽市	143	100	▲ 43 (▲30.1%)	88	▲ 55 (▲38.5%)
志摩市	339	249	▲ 90 (▲26.5%)	167	▲ 172 (▲50.7%)
度会郡	315	288	▲ 27 (▲ 8.6%)	200	▲ 115 (▲36.5%)
合計	1,879	1,549	▲ 330 (▲17.6%)	1,199	▲ 680 (▲36.2%)
県全体	16,244	14,006	▲2,238 (▲13.8%)	11,589	▲4,655 (▲28.7%)

(2) 直近5年の公立高校の学校別学級数の推移

平成30年度には地域で38あった学級数が、4年後の令和4年には32学級となっています。なお、10年前（平成25年度）は42学級、15年前（平成20年度）は47学級となっていました。

	H30	H31	R2	R3	R4	H20	H25
宇治山田高校	6	6	6	5	5	8	7
伊勢高校	8	7	7	7	7	8	8
伊勢工業高校	4	4	4	4	4	5	5
宇治山田商業高校	5	5	5	4	4	6	5
明野高校	5	4	4	4	4	5	5
南伊勢高校 南勢校舎	1	1	2	2	2	2	1
南伊勢高校 度会校舎	2	2				2	2
鳥羽高校	2	2	2	2	2	4	3
志摩高校	3	3	2	2	2	4	3
水産高校	2	2	2	2	2	3	3
合計	38	36	34	32	32	47	42

※網掛けは前年度に対する学級減

(3) 直近5年の公立高校の学科別学級数の推移

平成30年度には地域で38であった学級数が、4年後の令和4年には、普通科で4減、専門学科で2減（農業1減・商業1減）し、32学級となっています。なお、10年前（平成25年度）は42学級、15年前（平成20年度）は47学級となっていました。

		H30	H31	R2	R3	R4	H20	H25
普通科		20	19	17	16	16	24	21
専門学科	農業科	3	2	2	2	2	3	3
	工業科	4	4	4	4	4	5	5
	商業科	5	5	5	4	4	6	5
	水産科	2	2	2	2	2	3	3
	家庭科	1	1	1	1	1	1	1
	福祉科	1	1	1	1	1	1	1
総合学科		2	2	2	2	2	4	3
合 計		38	36	34	32	32	47	42

※網掛けは前年度に対する学級減

(4) 伊勢市外から伊勢市内への進学状況

鳥羽・志摩・度会地域の中学校卒業者のうち、一定数が伊勢市内の県立高校または私立高校に進学しており、その割合は増加傾向にあります。

	H30.3卒		R4.3卒	
	伊勢市内へ	割合	伊勢市内へ	割合
鳥羽市から	104	57.5%	86	60.1%
志摩市から	212	49.1%	201	59.3%
度会町から	48	60.8%	43	62.3%
南伊勢町から	38	48.1%	45	83.3%
2市・2町から	402	52.1%	375	62.0%

(5) 伊勢志摩地域から地域外への進学状況

当地域（伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町）の中学校卒業者のうち、一定数が県内他地域及び県外の高校等に進学しています。

	H30.3卒		R4.3卒	
	地域外へ	割合	地域外へ	割合
3市・3町から	286	13.4%	266	14.5%

(6) 伊勢志摩地域から地域内の私立高校への進学状況

当地域には全日制の高等専門学校1校、私立高校2校が設置されており、当地域の中学校卒業者のうち、一定数がこれらの学校へ進学しています。

	H30.3卒		R4.3卒	
	3校へ	割合	3校へ	割合
3市・3町から	484	22.7%	504	27.4%

※(5)(6)の3市・3町は、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町

(7) 伊勢志摩地域の高校（全日制）の入学定員と入学者数・欠員数の推移

当地域の公私立を合わせた11校12校舎の全日制高校において、公立では欠員が増加する傾向にあり、伊勢市以外の公立高校の欠員が多い状況です。

	H30	H31	R2	R3	R4
伊勢市内の公立高校の欠員	12	2	15	3	0
伊勢市外の公立高校の欠員	79	84	77	117	129
公立高校の欠員計	91	86	92	120	129
私立の欠員	▲51	▲39	▲83	▲71	▲82

(8) 伊勢志摩地域の県立高校生（全日制）の進路状況（H30～R2）

伊勢志摩地域の公立高校卒業生の進路状況は、県全体とほぼ同じ状況です。学校別にみると、普通科では大学進学または就職のどちらかが多く、専門学科では就職の割合は多いものの、学科によっては進学が多くなる場所もあります。

	大学等進学者		専門学校	各種学校等 (予備校・職訓等)	就職	その他
	大学	短大等				
伊勢志摩地域	42.9%	4.5%	12.4%	4.6%	33.6%	2.0%
県全体	41.4%	5.4%	14.8%	4.0%	32.3%	2.1%

普通科

宇治山田高校	80.8%	5.9%	8.5%	1.3%	1.1%	2.4%
伊勢高校	86.6%	1.1%	0.9%	8.4%	0.9%	2.1%
南伊勢高校（南勢校舎）	22.5%	0.0%	15.4%	0.0%	62.1%	0.0%
南伊勢高校（度会校舎）	5.8%	1.5%	14.3%	5.9%	68.7%	3.8%
志摩高校	16.1%	5.2%	33.4%	2.0%	42.3%	0.9%
合計	67.8%	3.2%	9.1%	4.8%	13.0%	2.1%

総合学科

鳥羽高校	8.1%	2.3%	19.1%	1.0%	63.3%	6.2%
------	------	------	-------	------	-------	------

専門学科

工業（伊勢工業高校）	7.3%	1.7%	8.9%	1.1%	80.1%	0.9%
商業（宇治山田商業高校）	44.1%	6.3%	10.6%	4.9%	33.6%	0.5%
水産（水産高校）	2.7%	14.0%	7.8%	4.2%	70.3%	1.0%
農業（明野高校）	7.6%	3.5%	29.5%	2.3%	54.2%	2.9%
家庭（明野高校）	5.8%	7.8%	45.2%	4.6%	30.6%	6.0%
福祉（明野高校）	7.5%	17.6%	19.0%	32.5%	21.6%	1.9%
合計	18.1%	6.1%	15.5%	4.8%	54.0%	1.5%

(9) 伊勢志摩地域の県立高校への通学状況

伊勢志摩全域からバス等を利用して伊勢市内の高校まで通える状況となっています。ただし、地域が広いため6:30前後の始発に乗車する生徒もいます。

【通学時間】

	15分以内	16～30分	31～45分	46～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計
伊勢志摩地域	476 (13.5%)	1,037 (29.5%)	722 (20.5%)	620 (17.6%)	528 (15.0%)	107 (3.0%)	27 (0.8%)	3,517 (100%)
県全体	4,309 (13.7%)	8,799 (27.9%)	7,283 (23.1%)	6,838 (21.7%)	3,551 (11.3%)	613 (1.9%)	110 (0.3%)	31,503 (100%)

3 今年度の協議

(1) 協議の概要【詳細は参考資料】

○ 第1回 令和4年 6月 8日(水)

15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数は令和19年度には現在の32学級から18～21学級となることが見込まれることから、令和4年3月に策定された「県立高等学校活性化計画」や当協議会でのこれまでの協議をふまえ、これからの伊勢志摩地域における県立高等学校の学びと配置のあり方について協議しました。

○ 第2回 令和4年 7月 5日(火)

伊勢市内の県立高等学校長2名をゲストスピーカーとして招き、各校の特色、取組や現状等について意見交換するとともに、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数が18～21学級となる令和19年度のあり方について、以下の2点について協議しました。

- ①15年先に実現したい、子どもたちの多様なニーズに対応した学びや、伊勢志摩地域の担い手を育む教育
- ② ①の学びを実現するための具体的な県立高等学校の学科、学校の規模や配置に関する考え方

○ 第3回 令和4年 8月24日(水)

15年先をふまえた伊勢志摩地域の県立高校における学びと配置のあり方に関する基本的な考え方や、地域の中学生と保護者を対象としたアンケートに関する質問内容、実施方法等について協議しました。

○ 第4回 令和4年10月12日(水)

地域の中学生や保護者を対象としたアンケートに関する質問内容等について、前回の意見等をふまえて協議するとともに、令和6年度に想定される当地域の県立高校の学級減への対応の方向性をはじめ、今後の地域の高校のあり方について、協議しました。

○ 第5回 令和4年12月20日(火)

第5回協議会の概要より転記予定

○ 第6回 令和5年 2月 日()

第6回協議会の概要より転記予定

(2) 中学生及び保護者を対象とした令和4年度伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果について【詳細は参考資料】

地域の中学生と保護者の意見を参考とするためにアンケートを実施しました。

調査期間：令和4年10月～11月11日
調査対象：伊勢志摩地域の中学2年生(1,702人)、中学2年生保護者(1,692人)
(伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・南伊勢町・玉城町・大紀町)
調査方法：中学生はC B Tシステムを利用、保護者は紙媒体
回答者数：中学生1,538人(回収率90.4%)、保護者1,391人(回収率82.2%)

【中学生の意見】

- ・高校を選ぶとき、学習面では「進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択できること」を、学校生活全般では「学校行事の充実」、「確かな学力を身につける授業」、「多くの友達や先生との出会い」、「通学のしやすさ」を重視している。
- ・高校には、「自分の将来を選択する力」、「社会性や協調性、コミュニケーション能力」を育む教育や、「基本的な知識」、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感」が身につく教育を期待している。
- ・5割近くの生徒が、高校では「3～4学級」の学校で学びたいと考えており、その理由は「友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うこと」としている。
- ・通学時間については、「31～60分」を選ぶ生徒が最も多く、1時間以内としている生徒は8割近くとなる。
- ・高校での地域の学習については、「別の分野」を学びたいという生徒が最も多いものの、「高校が所在する市町」や「伊勢志摩地域全体」を学びたいという生徒はあわせると6割をこえる。
- ・将来生活する場所については、「まだ、決まっていない。わからない」が最も多く、「県外」、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」、「地元」と続いている。

【保護者の意見】

- ・高校を選ぶとき、学習面では「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」を、学校生活全般では「確かな学力を身につける授業」、「通学のしやすさ」、「多くの友だちや先生と出会える」、「一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育」を重視している。
- ・高校には、「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育」をはじめ、「進路選択の力を育む教育」、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育」、「主体的に学び続ける力を育む教育」を期待している。
- ・これからの伊勢志摩地域の高校のあり方については、半数以上の保護者が「一定の統合は避けられない」を選択する中、約3割が「統合は避けるべき」を、約1割が「必要な統合を進めるべき」を選択している。
- ・通学時間については、中学生と同様、「31～60分」を最も多く選んでいる。
- ・将来生活する場所については、「本人の希望次第」が最も多く、「地元」、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」と続いている。

4 今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方について
(当協議会の考え方)